

稻荷山古墳(富津市)

前方が稲荷山古墳/前方後円墳/内裏塚古墳群の一つで九条塚古墳と三条塚古墳の間の時期(6世紀後半)に築造されたとらしい



くびれ部の手前の周溝のエリアに説明板が立っている/北西側から見たところ



富津市指定史跡 稻荷山古墳 (富津市青木字稻荷山)

昭和48年(1973)7月6日 市指定史跡

規模: 墳丘長106m・後円部径47m・前方部幅73m・後円部高6.0m・前方部高6.6m
盾形二重周溝を含めた全長202m

埋葬施設: 横穴式石室(後円部南東側に開口)

出土遺物: 円筒埴輪・形象埴輪(家・鬮・動物)

出土品保管場所: 富津市教育委員会

古墳群中では第3位の規模の前方後円墳で、九条塚古墳に後続、三条塚古墳に先行する6世紀後葉期の築造と推定される。墳丘全長・前方部幅は九条塚古墳とほぼ等しい値を示すが、後円部が長く、後円部が小さく、括れ部が細く、前方部が長く大きく開いており、そのプロポーションは九条塚古墳・三条塚古墳とも異なる独特の形態を示す。かつて墳丘上に人家が建てられていたため、括れ部付近が大きく削られているが、周溝を含めた全体的な残りは良く、農道や畦の区画に二重周溝の名残をよくとどめている。

当古墳は平成2年(1990)の調査で二重周溝の範囲が確認されるとともに、後円部南東側に凝灰質砂岩自然石乱石積の横穴式石室が開口することが明らかにされた。石室については入口部の確認にとどまり、内部については未発掘である。墳丘裾には隙間なく円筒埴輪列のめぐらされていることが確認されており、埴輪には赤や白に彩色されたものも認められる。

当古墳は周溝規模では三条塚古墳を上回り、6世紀後半の古墳としては東日本最大である。

前方部の両隅が丸くカットされている



左手を見たところ/周溝の雰囲気を感じられる



右手を見たところ/楕形に2重の周溝が巡っていた



さて、前方のくびれ部に入ってみよう



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



墳丘に登る



ここがくびれ部



その先(反対側)はこのように大きく挟まれており、過ってここに人家が建てられていたらしい



これはくびれ部から前方部方向を見たところ



ここが前方部



ここは後円部/横穴式石室が後円部南東側に開口していると云うが良く分からない



後円部からくびれ部とその先の前方部方向を見たところ



くびれ部から最初の所へ下りていく





これは北側から見た後円部



左手に周溝の感じを見たところ



これは北東側から右手の周溝の感じを見たところ



これは南東側から見た墳丘/正面がくびれ部で左手が前方部、右手が後円部



そこで左手の前方部を見たところ



同じく右手の後円部を見たところ



これは西側から見たところ/右手前が前方部、左奥が後円部



左手に周溝の感じを見たところ



くびれ部の感をアップで見たところ



右手の周溝の感じを見たところ



これは南西側から前方部を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



これは南側から見たところ



そこで右手を見たところ



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/huttu_inari/

<http://www.haniwakan.com/kenkyu/boso/huttu.html>

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2014/04/01/223346>

<http://tokyo-bay.biz/pref-chiba/city-futtsu/ch0318/>

<https://blog.goo.ne.jp/noda2601/e/62f6fc8eb95f2d0818208a7eaa617b09>

<http://obito1.web.fc2.com/futtu.html>

http://2nd.geocities.jp/txinui/kantou_kofun6b.htm

http://s.webry.info/sp/kandayoshinobu.at.webry.info/201711/article_2.html

